

先生と児童のやり取りを意識した言語活動

—英語絵本を活用して—

教科研究センター 小中学校教科研究課 英語教育グループ

吉田朋世 栗原忍 小竹紀子

英語教育グループでは、平成 28 年度から小学校の外国語教育において、どのように英語絵本を活用していくかを研究してきた。今年度は、先生と児童のやり取りを生み出す英語絵本の読み聞かせの方法を、研究協力校での実践を通して探っていった。以下、平成 30 年度の研究成果と課題について考察する。

〈キーワード〉 小学校、外国語活動、外国語、言語活動、英語絵本、読み聞かせ

I はじめに

新学習指導要領の「外国語活動」や「外国語」の目標の中でコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力を育成するのは「言語活動を通して」とされており、言語活動は小学校の外国語教育において核となる活動である。言語活動は、外国語活動では「聞くこと」「話すこと」であり、外国語科では「読むこと」と「書くこと」が加わる。学習指導要領の外国語活動や外国語科において、言語活動は、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。

外国語活動においては、「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」の3領域で言語活動が示されている。外国語を習得していく過程においては、英語の音声に十分に触れることと、実際に使ってみることが重要である。特に、外国語活動において初めて外国語に触れる児童が多いことを踏まえると、聞くことの言語活動が十分に設定されることが大切である。「聞くこと」の言語活動として、「(ア)身近で簡単な事柄に関する短い話を聞いておおよその内容が分かたりする活動」が挙げられている。ここでは、絵本を読み聞かせながら、大まかな内容を理解させたり、どのページのことを言っているのかを推測させたり、内容に関する簡単な質問に答えさせたりするなどの活動が考えられる。また、「(イ)身近な人や身の周りの物に関する簡単な語句や基本的な表現を聞いて、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動」が挙げられている。ここでは、非言語情報であるイラストや写真を用いることで、英語の語句や表現の意味が捉えやすくする活動が考えられる。

福井県は、平成 30 年度から国に先行して新学習指導要領に沿った「外国語活動」「外国語」を実施している。それに伴い、福井県教育委員会は3～6年生に対し、移行期における年間指導計画やオリジナル指導案を作成した。

平成 28 年度からの教育総合研究所の英語教育グループの英語絵本の読み聞かせの研究の結果として、「あらすじや話の展開を類推させるための手法」や「児童参加型の雰囲気作りのための手法」などが有効だと明らかになった。また、英語絵本を活用することで、英語でのやり取りが生まれ、そこから自分のことや身近なことへつなげ、考えを広めることができるという成果もみられた。

これらのことから、互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を英語絵本の読み聞かせをするなかで生み出すことが有効ではないかと考え、平成 30 年度も英語専科ではない担任の先生に研究協力員を依頼し、外国語活動の授業において、ほぼ毎時間英語絵本の読み聞かせを取り入れることで、言語活動の充実を図ることができるかについて研究を進めることとした。

II 研究の概要

1 研究の目的

「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を生み出すための、英語絵本の効果的な活用法を探る。

2 研究の方法

- (1) 研究所が英語での自然なやり取りが生まれるような英語絵本の読み聞かせの指導案を作成し、それをもとに、研究協力員と実践前に打ち合わせを行う。
- (2) 研究協力員が授業を行い、研究員が授業の様子を観察・記録し、やり取りが生まれる英語絵本の活用法を検証する。

3 研究内容

- (1) 研究実践の概要

- ① 研究実践期間

平成 30 年 5 月～平成 31 年 3 月

- ② 研究協力校について

福井市内の小学校 1 校、4 年 1 組（25 名）に協力を依頼した。研究協力員は、英語専科でない担任の先生である。

- ③ 使用した絵本

外国語活動の授業で使用した絵本は、次の 16 冊である。教育研究所の英語教育グループが作成した「英語の絵本活用リスト」の中から、先生と児童が英語でやりとりをしながら読み聞かせができる絵本を選び、1 時間の授業につき 1 冊使用した。「英語絵本活用リスト」は、教育総合研究所の学習支援システムで閲覧することができる。また、リストに掲載されている絵本はすべて貸し出し可能である。

	題名	著者名	出版社名
1	Ketchup On Your Cornflakes?	Nick Sharratt	Scholastic
2	NOT A BOX	Antoinette Portis	Harper Collins
3	COLOR ZOO	Lois Ehlert	Harper Collins
4	Pete the Cat I Love My White Shoes	(著)Eric Litwin (絵)James Dean	Harper Collins
5	What's the time, Mr. Wolf?	Annie Kubler	Child's Play
6	GO AWAY, BIG GREEN MONSTER!	Ed Emberley	LB Kids
7	Good Morning	文部科学省	文部科学省
8	COLOR SURPRISES	Chuck Murphy	Little Simon
9	Who Stole the Cookies?	(著) Mikiko Nakamoto (絵) Hideko Kakegawa	アプリコット
10	Shark in the Park!	Nick Sharratt	DOUBLEDAY
11	What's in the Witch's Kitchen?	Nick Sharratt	CANDLEWICKPRESS
12	First the Egg	Laura Vaccaro Seeger	A Neal Porter Book
13	ACTUAL SIZE	Steve Jenkins	Houghton Mifflin Company
14	Dear Zoo	Rod Cambell	MACMILLAN
15	FORTUNATELY	REMY CHARLIP	Aladdin
16	What do you do with a tail like this?	Steve Jenkins & Robin Page	HMH Books for Young Readers

(2) 絵本の紹介と活用例

① “Ketchup On Your Cornflakes?”(しかけ絵本・パターンブック)

内容

各ページが上下2段に切られており、それぞれ独立してページをめくっていきるので、上下の絵の組み合わせを楽しむことができる。

読み聞かせの工夫

- ・ Let's Try! 1 の Unit4 I like blue. で学習する Do you like ~? / Yes, I do. / No, I don't. に関連づけて読み聞かせを行うことができる。
- ・ 絵を少しずつ見せながら、何なのかを想像させていく。
- ・ 上と下との組み合わせの面白さをより感じさせるために上の絵を変えずに下の絵だけ変えていく。
(例: Do you like ketchup on your cornflakes? → Do you like ketchup on your chips?)
- ・ すべての組み合わせを扱う必要はない。児童の反応を見ながら臨機応変に読み聞かせる量を考えていく。

英語でのやり取りが生まれる読み聞かせ例

T: What's this? (ケチャップの絵を少しずつ見せながら)

Ss: ジュース? トマト? ケチャップ?

T: Yes. It's a ketchup. I like ketchup. Do you like ketchup?

S: Yes./No.

T: Yes の人、Raise your hand.

I see. Yes. って言うだけでよかったかな? 何か Yes の後になかった?

S: Yes, I do.

T: That's right. みんなで言ってみよう Yes, I do.

Ss: Yes, I do.

T: No. Raise your hand.

I see. No って言うだけでよかったかな?

S: No, I don't.

T: That's right. みんなで言ってみよう。No, I don't. One, two.

Ss: No, I don't.

T: I like cornflakes. Do you like cornflakes? (絵本の表紙の下の部分だけ見せながら)

Ss: Yes, I do. / No, I don't.

T: I see.

Do you like ketchup on your cornflakes? (絵本の表紙全部を見せながら)

Ss: Yes, I do. / No, I don't.

T: I don't like ketchup on my cornflakes. No way!!

☆このようなやり取りを絵をかえて繰り返す。

児童の反応

子どもたちは、絵からの情報と知っている英語の言い方から内容を理解し、とんでもない組み合わせになると、本気で No, I don't. と叫んだり、好きな組み合わせになると、笑顔で Yes, I do. と答えたりしていた。

② “NOT A BOX”(パターンブック)

内容

ただの段ボール箱を、車や山、ビルなどいろいろなものに見立てて遊ぶうさぎのお話。うさぎに見える想像の世界が赤い線で書き加えられている。

読み聞かせの工夫

- ・絵本に書かれている文を読むだけでなく、What can you see? / What's this? / What is the rabbit doing? / It's not a box. It's aなどと子どもに語りかけながら読み進めていく。
- ・子どものつぶやきを英語に変えてインプットしていき、様々な語彙に触れさせていく。
- ・英語の意味をつかませるために、絵を指さしたりジェスチャーを加えたりする。

英語でのやり取りが生まれる読み聞かせの例

T: What can you see? (標題紙を見せる)

S: ウサギだ!

T: Yes. It's a rabbit. What else?

S: 箱かな?

T: Yes. It's a box. The rabbit is going to do something fun with the box.

What is the rabbit doing on top of that box?

S: 表彰台に立っている。/ステージでみんなに話している。

T: I see. Good guess. It's not a box. It's a..... (ページをめくる)

What's this?

S: 山だ!

T: Yes. It's a mountain. The rabbit climbs up to the top of the mountain.

S: 富士山みたい。

T: I see. It looks like Mt. Fuji.

(ページをめくる) What is the rabbit doing?

S: 水をかけているみたい。

T: I see. The rabbit is giving water to a box. But it's not a box. It's a..... (ページをめくる)

What's this? (ビルを指さす)

S: ビルだ。

T: Yes. It's a building. The rabbit is..... (ウサギを指さす)

S: 消防士だ

T: The rabbit is a fire fighter. The rabbit is trying to put out the fire.

(ページをめくる) What is the rabbit doing?

S: 箱の中に隠れているみたい。/箱をかぶっているみたい。

T: I see. The rabbit is wearing a box like clothes. (服を着ているジェスチャーをする)

But it's not a box. Then what? 何だと思う? What do you think?

S: 洋服? / ロボット!

T: It's a..... (ページをめくる) What's this?

S: ロボットだ。

T: That's right! It's a robot.

児童の反応

子どもたちは、想像力を膨らませて箱が何に変身するのか、口々に話をしていた。ページをめくると、「え〜」「やっぱり」などといった反応が多くみられた。

③ “What’s the time, Mr. Wolf?”(しかけ絵本・パターンブック)

内容

「オオカミさん、今何時？」と朝起きてから夕飯まで1時間毎に問い、オオカミが時刻と合わせて「～の時間だよ。」と答えていくお話。

読み聞かせの工夫

- ・ Let’s Try! 2 の Unit 4 What time is it? で時刻や生活時間の言い方や尋ね方が出てくる。それに関連づけて読み聞かせを行うことができる。
- ・ Let’s Try! 2 の Unit 9 This is my day. で日課を表す表現が出てくる。それに関連づけて、読み聞かせを行うことができる。
- ・ 先生がオオカミになりきり、What do I do? と問いかけ、wake up / have breakfast / brush my teeth といった表現をインプットしていく。
- ・ オオカミのパペットがついているので、パペットを使ってオオカミと子どもがやり取りしているように見せることができる。

英語でのやり取りが生まれる読み聞かせの例

T: What’s this? (表紙のオオカミの絵を指さす)
 S: オオカミだ。
 T: Yes. It’s a wolf. I’m Mr. Wolf. Today’s story is about Mr. Wolf’s day. (オオカミらしく読む)
What do I do?
 S: 起きたところだ!
 T: Yes. I wake up.
 Ss: I wake up.
 T: What time is it?
 S: 7時!
 T: In English?
 S: It’s 7 a.m.
 T: Good. It’s 7 a.m.
 Ss: It’s 7 a.m.
 T: I wake up at 5 a.m. What time do you wake up, S1?
 S1: 6 a.m.
 T: I see. You wake up at 6 a.m. What do I do?
 S: 朝ご飯を食べている!
 T: Yes. I have breakfast.
 Ss: I have breakfast.
 T: What do I have for breakfast?
 S: オレンジジュース/卵/トースト。
 T: I have orange juice, eggs, toast and (食べ物の絵を指さしながら話す)
 S: Corn flakes.
 T: That’s right. I have a big breakfast! I’m hungry.

児童の反応

子どもたちは、絵本の絵を見ながら、オオカミが何をしているところかを考えていた。オオカミがしていることを先生が英語で言い直すと、その後が続いてリピートし日課を表す表現に慣れ親しんでいる様子が見られた。

④ “Actual Size” (紹介文)

内容

見開きに実物大の動物または動物の体の一部が現れる。各動物の生態等についても簡単に紹介されている。

読み聞かせの工夫

- ・ What's this? / Whose hand is it? / How tall is it? など、児童に語りかけながら動物について紹介していく。
- ・ 本の絵だけでは想像しにくそうな動物については、写真を用意して子ども達が想像しやすいよう工夫する。

英語でのやり取りが生まれる読み聞かせの例

T: What's this? (表紙の絵を指さす)

S: 手だ!

T: In English?

S: Hand.

T: Good. Whose hand is it?

S: ゴリラ!

T: Yes! This is a gorilla's hand. Let's compare gorilla's hand with mine.

What do you think?

S: ゴリラの手がすごく大きい!

T: It's really big, isn't it? (何人かの児童にも手を比べさせてもよい) How many fingers?

S: Five.

T: A gorilla has 5 fingers. How many fingers do you have?

S: Five.

T: Gorilla's hands look like ours! (ゴリラと手を比較させながら)

Look at this! (ページをめくる) What's this?

S: 目だ!

T: Whose eye is it?

S: イカだ。ダイオウイカじゃないかな。

T: That's right. This is a giant squid. Look. A giant squid lives in the deep sea.

(深海で泳いでいる写真を見せる)

S: 深海にいるんだ!

T: Yes. Guess how long is it?

S: 10m?

T: More than 10 m.

S: 15m?

T: Getting close.

S: 18m?

T: That's right. A giant squid is 18 m long. 教室2つ分くらいの大きさだよ。

児童の反応

動物好きな子どもたちが、目を輝かせながら「ダイオウイカだ」「タランチュラだ」と日本語名で動物の名前を答えている姿が見られた。授業の後には、動物図鑑を手にして絵本に出てきた動物についてさらに詳しく調べたり、出てきた動物を題材にした版画の作品を作ったりしている姿も見られた。

⑤ Dear Zoo (しかけ絵本・パターンブック、クイズ)

内容

「ペットにする動物を送ってください」と動物園に手紙を出すと、いろいろな動物が箱に入って送られてくるお話。大きすぎたり、背が高すぎたりしてなかなかペットが決まらない。箱の部分がしかけになっていて、めくると動物が姿を現す。

読み聞かせの工夫

- ・はみ出している動物の絵を付箋で隠し、見ただけでは送られてきた動物が何かが分からないようにする。
 - ・Do you want a giraffe as a pet? などと、送られてきた動物をペットとして飼いたい? と問いかけることで、児童一人一人が「自分だったら」と考えながら絵本の世界を楽しめるようにする。
- 最後に、What is your perfect pet? と問いかけ、Dog./ Cat./ Frog./ Rabbit. など自分にとって一番飼いたいペットについて語り合う場面をつくることもできる。

英語でのやり取りが生まれる読み聞かせの例

T: Today's book is Dear Zoo. What does Zoo mean?

S: ??

T: Do you want any hints?

S: Yes.

T: OK. You can see many animals such as tigers, kangaroos and pandas in the zoo.

S: 動物園だ!!

T: That's right. 動物園へお手紙を書いたお話だよ。どんなお手紙を書いたのかな? Let's see!!

Do you have a pet?

S: Yes. / No.

T: I don't have a pet. I want to have a pet. Do you want to have a pet?

S: Yes. / No.

T: I see. I want to have a pet. I wrote a letter to the zoo to send me a pet.

They sent me an..... This!(箱を指さす)

He was too big!! He was too heavy!! (ジェスチャーをつける)

What animal is it?

S: 象。

T: Elephant. Anything else?

S: カバ。

T: Hippo. Let's see the inside of a box! (ゆっくり見せていく) What's this?

S: Elephant!

T: That's right. They sent me an elephant! Do you want an elephant as a pet?

Ss: Yes. / No.

T: I don't want an elephant as a pet! So I sent him back to the zoo.

Then they sent me a..... This! He was too tall. What animal is it? Guess.

児童の反応

子どもたちは、「Too heavy. Too big.」のヒントと先生のジェスチャーをもとに何の動物が送られてきたかを想像し、口々に「キリンかな。」「象かな。」とつぶやく姿が見られた。そして、付箋をはがしながら、少しずつ動物の絵を見せていくと、「やっぱり象だった。」などと自分の予想が合っていたことに喜ぶ姿や「○○くんが合っていたね」と友達を賞賛する姿が見られた。

⑥ “Shark in the Park!” (物語・しかけ絵本・パターンブック)

内容

主人公のティモシーが、新品の望遠鏡を手に公園へ行き、あちこち見回していると、サメの背びれが望遠鏡に映ってびっくりする話。

読み聞かせの工夫

- ・ Let's Try! 2 の Unit 8 This is my favorite place. では、Turn right./ Turn left. / Go straight. の表現を使って学校を案内する。それに関連づけて読み聞かせを行うことができる。
- ・ He looks right. He looks left. He looks up. He looks down. のところで、子ども達も望遠鏡を持っているふりをして、右を向いたり、左を向いたりすると right / left / up / down の意味をつかみやすくなる。

英語でのやり取りが生まれる読み聞かせの例

T: What's this?

S: サメだ！！

T: That's right. This is a shark. Do you like sharks?

S: Yes, I do. / No, I don't.

T: I don't like sharks. It's scary. (次のページを見せる)

What is it?

S: 公園だ

T: Yes. It's a park. This is Timothy Pope. What is he doing?

S: 望遠鏡をのぞいているよ

T: He looks through his telescope. He looks up. What does he look?

S: 空かな？

T: That's right. He looks at the sky. He looks down. What does he look?

S: 地面？

T: Yes. He looks at the ground.

Which way does he look? (望遠鏡で右を見ているふりをする)

S: 右!

T: He looks right. Which way does he look? (望遠鏡で左を見ているふりをする)

S: 左

T: He looks left. And this is what he sees. What does he see?

S: サメだ！

T: Yes. He thinks it's a shark. So he cries, "There's a shark in the park!!"

A shark? NO. It's a (ページをめくる)

S: ネコだ

T: Yes. It's only a cat!! He sees what?

S: ネコの耳だ

T: He sees a cat's ear. What a relief.

So he looks (望遠鏡で上を見ているふりをする).....

S: Up.

T: Good. みんなもやってみよう。 He looks up! (望遠鏡で上を見ているふりをする)

Ss: He looks up. (望遠鏡で上を見ているふりをする)

T: He looks down. (望遠鏡で下を見ているふりをする)

5 研究の課題

これらの実践を通し、英語絵本の読み聞かせを行っていく上で課題が三つ浮かび上がってきた。

(1) 英語絵本の読み聞かせを継続的にしていくための環境づくり

今回の実践のように、毎時間英語絵本の読み聞かせを行うためには、各学校に英語絵本が常備されていないと難しい。研究協力校では、今回使用した英語絵本の中でも、児童の反応が良く英語でのやり取りをより多くすることができたものを10冊学校で購入した。また、それら10冊の英語での読み聞かせの仕方を示した資料を添付することで、先生方が英語で読み聞かせを行えるようにしていく予定である。他の学校でも、英語絵本を活用した言語活動を行っていけるよう、このような取組みを紹介していきたい。

(2) 英語絵本を活用した言語活動の発信

平成28年度から英語教育グループは、英語絵本の活用法について研究を進めてきたが、まだまだ各学校に浸透しているとは言いがたい。今年度の実践を通して、英語絵本は新学習指導要領が示す言語活動を生み出すことができると考えられる。従って、さらに今後英語絵本の活用を各学校に広めていく必要がある。英語教育グループとして、来年度から基本研修や訪問研修などでより多くの英語絵本の活用法を紹介したり、英語絵本の読み聞かせの仕方などを考えたり情報交換をしたりするワークショップを開いたりするなど発信方法を工夫し、英語絵本の活用法を広めていきたい。

(3) 先生の英語力向上

英語絵本を読み聞かせする中で、先生と児童の英語でのやり取りを生み出すには、先生自身の英語力向上が必要である。読み聞かせをする前に、どのように英語で問いかけるか考えることで先生自身の英語の勉強になる。また、やり取りの中で生まれた児童の想定外のつぶやきに英語で対応していく中で、自分に必要な語彙や表現が明らかになり、それらを授業後に改めてALTに聞いたり辞書で調べたりすることで、英語力を向上させることができるであろう。

Ⅲ 研究のまとめ

本年度は、先生と児童の英語でのやり取りを生む英語絵本の読み聞かせの方法について研究を行ってきた。研究協力校の4年生の児童に、ほぼ毎時間外国語活動の際にやり取りを意識した英語絵本の読み聞かせを行ったことで、児童の英語の語彙力が増したり、英語の意味を推測しながら内容を理解しようとする力を育てたりすることができたと考える。来年度は、平成28年度からの英語教育グループの英語絵本の研究を福井県の先生方に発信していくことに力を入れていきたい。

また、今年度は4年生のみの実践だった。来年度は、5・6年生を対象に新学習指導要領に沿った言語活動中心の授業作りや文字指導の在り方について研究を進めていきたいと考えている。

《参考文献》

- 文部科学省(2017) 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』
- 金森強・本多敏幸・泉恵美子 編著(2017) 『主体的な学びをめざす小学校英語教育～教科からの新しい展開』教育出版
- 第10研究グループ(2018) 『語研ブックレット7 小学校英語3～絵本を活用した授業づくり～』一般財団法人 語学教育研究所
- 福井県教育総合研究所(2018) 研究紀要 第123号